

2019 年度立命館附属校 教師塾Ⅲ

～主体的な学びを育む授業づくり、学校づくり～

附属校教育研究・研修センター

6月18日(火)朱雀キャンパスにおいて、附属校教育研究・研修センター主催の教師塾Ⅲを実施した。

(株)リクルート マーケティングパートナーズ キャリアガイダンス編集長の山下真司先生をお招きし、「主体的な学びを育む授業づくり、学校づくり～これからの社会を生き抜く生徒たちにどんな資質・能力を育むか～」と題してワークも交えながらご講演いただいた。

参加者は、10人(立命館小学校1人、立命館宇治中高2人、立命館慶祥中高3人、立命館守山中高4人)であった。

《研修の概要》

本日の講習は次の3つの柱をもとに、新学習指導要領を振り返り、5つのワークを通して先生方が自分の学校の生徒にどんな資質や能力を育んで欲しいのか。そして、これからの立命館附属校としての授業づくり・学校づくりを考えるきっかけとなるものであればと思う。

1 生徒たちが歩む「これからの社会」

これからの子ども達は、不安定で不確実、複雑で曖昧な社会経済環境(VUCA World)の中で生き抜くことになる。企業の寿命よりも人の就労年限の方が長くなる。これからの社会を生きるために、必要とする力とは何か。それは、学び続けられる人である。

○ワーク1 貴校の生徒たちの様子で、良い点・悪い点はなにか? 各先生で考え、班で発表する。

○ワーク2 生徒(保護者)は貴校に何を期待して入学し学んでいるか? 各先生で考え、班で発表する。

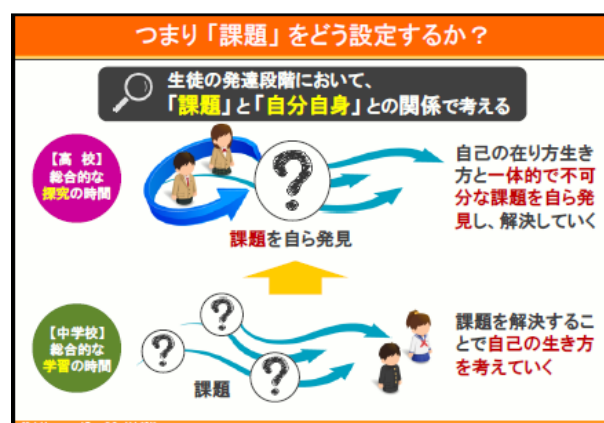
2 新学習指導要領の狙い

新学習指導要領では、高等学校は「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」となった。今年度から先行実施される「総合的な探究の時間」(以降「探究」)を注目していく。

「総合的な探究の時間」では学習者の視点に立ってどのような学びにしていくべきかを考えて欲しい。

中学校では課題解決することで自己の生き方を考えていくが、高等学校では「課題」と「自分自身」との関係性で考える。つまり、中学校まではいろいろな課題を通じて何に興味があるのか、自己の生き方を考えていく。高等学校ではこの先何を学んでいきたいか、研究したいかその先の就職を見据えて生き方を捉えて「探究」に取り組んでいく、と大きく変わっている。学ぶプロセスも高度化し、自律的に学んでいるかも着目して取り組んで欲しいというのが高等学校の「探究」である。

実施する場合、特に「問い」の設定が難しい。検討していく事例として岩手県立大船渡高校独自の総合的な学習の時間「大船渡学」(学年の取組み)を紹介する。



「大船渡学」1年目、生徒の論文は3つ（市街地の活性、震災復興、郷土芸能の継承）のテーマに絞られたものであった。探究学習に取り組む時数も限られているという実情もあった。しかし、このままでよいのかと疑問を持った先生が2年目より、ただ単に大船渡（地域）について学ぶのではなく「自分の学びたいことを大船渡で学ぶ」にリノベーションされた。生徒たちは悩み、自分たちで課題を見つけ取り組むことに大変だったと述べてつつ、本当にいい活動だった、大切な活動と感想を述べている。担当の先生は学年団の先生方に「問い磨き」をお願いするルーブリックを作成し、生徒との対話を依頼している。そして、外部の先生方にもサポートを頂いている。学びの中で生徒たちに変化（解決力、対話、表現力、今までの疑問がビックリマークになど）が見られた。

「探究」では目標設定が鍵になる。各学校で目標を定めるが、上位概念で育成すべき資質・能力の3つの柱があって、縦のラインがつながっているのが大切である。

鳥取県の青翔開智中学校・高等学校では探究学習「ゼロからの創造力。「なぜ」「どうして」の追求そして中高生の今、何を学ぶか」を取り入れ、4年半にわたり「探究」の授業を行う。その中で生徒に「創造力」「コラボレーション力」「論理的思考」「批判的思考力」「情報集・編集力」を身につけている。進路と「探究」が関連性のある卒業生が出てきている。

探究する力は年齢とともに弱っていないだろうか。子ども達に「探究」の時間だけでなく教科の時間も含めて「？」マークから「！」マークにすることが大切ではないだろうか。

○ワーク 3 これからの社会を生きる生徒にどんな力が必要か？各先生で考え、班で発表する。

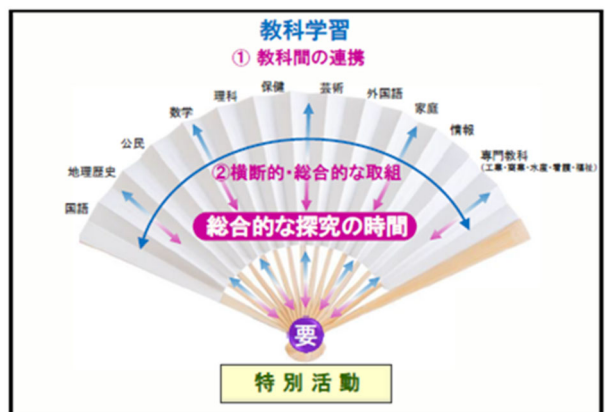
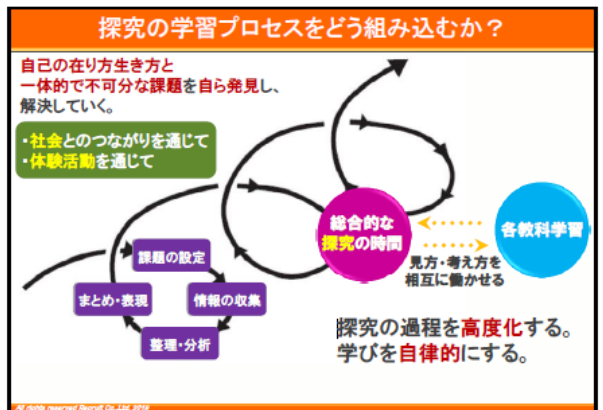
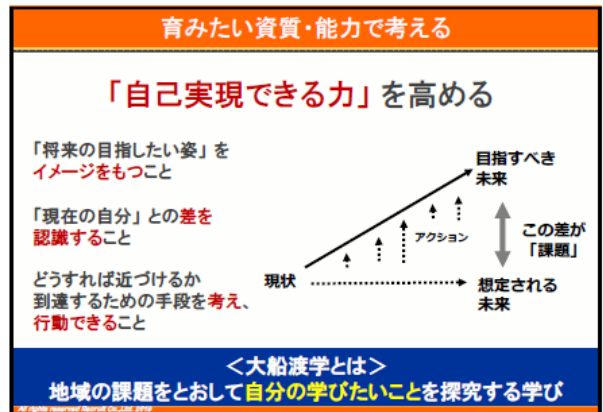
新学習指導要領で「要」の役割を果たすのが「特別活動」である。

「特別活動」には「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という3つの視点があり、「集団活動」と「実践的な活動」という特質がある。

しかし、現実には各活動・学校行事において身につけるべき資質・能力について必ずしも意識されないまま指導が行われてきたのではないだろうか。

新学習指導要領（高等学校）の「総則」には「特別活動を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」と記載されている。

特別活動には「ホームルーム（学級）活動」「生徒会活動」「学校行事」の活動等がある。その中の



「ホームルーム（学級）活動」の項目の3つ目が「学業と進路」が今回の改訂で「一人一人のキャリア形成と自己実現」に変わった。小学校でも「一人一人のキャリア形成と自己実現」の項目が新設され、小中高で系統的なキャリア教育に取り組んでいくことになった。その際、「キャリア・パスポート」を活用することが次期学習指導要領の答申（2016/12/21）でうたわれている。

「キャリア・パスポート」とは各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオである。

ポートフォリオで気になるのは「蓄積するだけ」になっていないかということである。ポートフォリオはJEP（JAPAN e-Portfolio）映えのための評価でなく、多面的・多角的な評価に役立つものである。

聖光学院中学校高校（神奈川県）では「探究学習」「自主活動」のプロセスを可視化して蓄積し、フィードバックも共有化している。ポートフォリオによって成績だけでない生徒のよさをすくい取って伸ばしている。

追手門学院大学の三川教授は次のように述べている。「生徒が自分の気付きや学びを言語化するツールが「ポートフォリオ」である。そして生徒の成長を目的とした意図を持った「対話」によって生徒の主体性や自己理解を引き出すものである。」

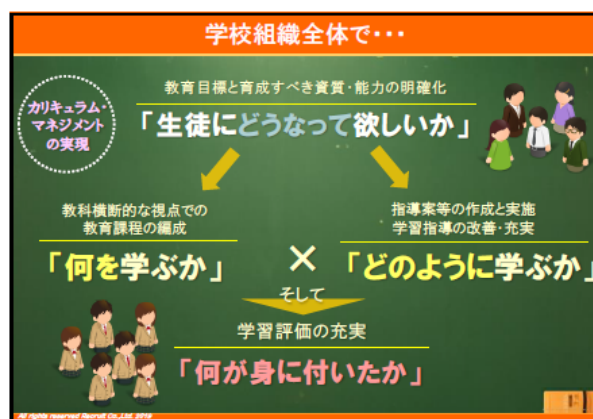
今回の学習指導要領の一番のメッセージは「何をどのように学び、何ができるようになるのか」である。資質・能力の3つの柱はよく知られているが、何のために必要なのかを考えて欲しい。3つの柱の前に記述されている言葉が大切ではないだろうか。

「生きて働く」知識・技能の習得、「未知の状況にも対応できる」思考力・判断力・表現力等の育成、「学びを人生や社会に生かそうとする」学びに向かう力・人間性の涵養。

学校全体で「生徒にどうなって欲しいのか」→「何を学ぶか」×「どのように学ぶか」そして「何が身に付いたか」のPDCAをまわすのがカリキュラムマネジメントであると思っている。先生方全員で「学びの地図」を描いて欲しい。原点に立ち返り、未来をイメージし、言語化して欲しい。

3 これからの取り組みに向けて

○ワーク 4 授業で大切にしていること、意識していること各先生で考え、班で発表する。



2人の先生の授業を例に挙げ、2人の先生が大切にしていることはなんだろうかを考える。授業を通じて何を伝えたいのか、どんな力をつけたいのか、大切にされていることが「授業観」ではないだろうか。授業手法を磨きながらも、目の前の生徒に育みたい資質・能力に立脚した授業デザインが大切である。教科を通じて子どもに伝えたいことは何なのか？1年間の中でここぞという單元の中で、ぜひ熱く語って欲しい。

○ワーク 5 生徒に育みたい資質・能力とは？（時間の都合で、課題となる。）

それぞれの学校で子ども達を思い浮かべて、個人だけでなく、できれば学年で、学校全体で、育みたい資質・能力を考えて欲しい。

では、教員とは何だろうか？ご自身の教員像として下記の余白に入る言葉を考えて欲しい。

教員＝教える＋（ ）

先生方が大事にしている言葉が入るのでは。改めてその言葉を認識して欲しい。

「前年踏襲」「時期尚早」などのことが学校ではよく言われるが、ぐっところえて先生方はこれからの学校作り、授業作りを目指してほしい。

先生が教員になった志と学校の教育目標という【原点】、今回の学習指導要領の【本質】を捉えて何を伝えないといけないのかと読み取り、それぞれの学校の5年度、10年後どんな学校にしたいのか、先生はどんな授業がしたいのか【ビジョン】を考えて欲しい。

新しく立命館に入られた先生だからこそ、新しい歴史を作って欲しい。

新学習指導要領には小中高すべてに共通した文章（前文）がある。この内容こそが子ども達の実態に則して先生方が取り組んでいく学校作り、授業作りではないだろうか。

本日のワークは子ども達の実態をきちんと捉えること、そして何を期待して子ども達が各学校で学んでいるのか、これが学校の文化（特色）と知っている。特色として進学が挙げられるかもしれないけれど+αが必要。そして、目指す生徒像、先生の授業観、これらを元に資質・能力を考えて、各先生の授業作り、学校作りを言葉にしてほしい。

22世紀を生きる子どもたちに+αを意識して、明日から頑張ってください。



新・学習指導要領の「前文」に込められたメッセージ

前文（抜粋） 2018.3.30 新・学習指導要領 告示

これからの学校には、教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、^①自分のよさや可能性を認識するとともに、^②あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、^③多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、^④豊かな人生を切り拓き、^⑤持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

生徒の実態や育みたい資質・能力に応じてそれぞれの学校の特色を生かした教育課程に取り組んでいく

All rights reserved. Design Co., Ltd. 2018.

本日のワークシート

<p>① 貴校の生徒たちの様子 ○(優れているところ) △(課題 or 努力が必要) ※ 少なくとも1つずつ以上</p>	<p>③ これからの社会を生きる生徒にどんな力が必要？</p>
<p>② 生徒(保護者)は貴校に何を期待して入学・学んでいるのでしょうか？</p>	<p>④ 授業で大切にしていることや意識していることは？</p>

生徒に育みたい資質・能力

?

All rights reserved. Design Co., Ltd. 2018.